

2023年7月5日

学校法人三幸学園
大宮こども専門学校
校長 増田 泰朗 殿

学校関係者評価委員会
委員長 黒米 聖

学校関係者評価委員会実施報告

2022年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ①黒米 聖 (一般社団法人日本保育教育研究会 代表理事)
- ②山田 眞士 (社会福祉法人うぐす拓育会 うぐす保育園浦和本太)
- ③島田 貴司 (飛鳥未来きずな高等学校大宮キャンパス)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2023年7月3日(会場 大宮こども専門学校 2号館202教室)

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2022 年度 学校法人 三幸学園 大宮こども専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 丸山 政孝

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 黒米 聖

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、保育分野の学校として「こどもを育み、人・社会を活性化することで日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、保育分野として「皆から信頼・感謝されるこどもの未来を育む人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

- ・チーム担任制を設け、定期的な学年ミーティングや生徒面談の裁量を広げ生徒指導の多様化を図った。
- ・Microsoft Teams(ビジネスチャットツール)を有効活用し全教職員で情報の共有、認識の統一化を図った。
- ・クラスアンケートをもとに学年の課題を明確にし、課題改善に向けたミーティングや対策を行った。

② 学校関係者評価委員会コメント

(黒米委員)

担任が1人だと担任不在時にコミュニケーションが取れないリスクがある。反対に複数担任だと誰に伝えるべきか迷うケースがある。ビジネスチャットツールは非常に便利だが、連絡を見逃しがちになってしまう教員が多いのではないかと。

(島田委員)

高校でもクラスアンケートを活用している。加えて保護者アンケートも取り、保護者の意見を取り入れられるようにしている。

(山田委員)

チーム担任ではありながらも現実的にはクラスの主担任に相談しやすかった。しかし、チーム担任制があることで様々な生徒が様々な先生に相談できる環境があるということは望ましい。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

・教育理念「技能と心の調和」や人材育成像「皆から信頼・感謝されるこどもの未来を育む人材」など、入学時のスタートアッププログラムで重点的に話をしており、教育理念の浸透は図れている。但し、継続的に伝える機会は無いため、進級生にも改めて教育理念や人材育成像を共有する必要がある。

② 今後の改善方策

・進級学年にもミニスタートアッププログラムを実施し、本校の理念や人材育成像を再度伝えることで自己評価を行い、自身の課題を意識した学校生活を過ごす機会を作る。
・新入生・進級生の保護者向けオンデマンド説明会を実施し、教育理念の浸透を図る。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

（島田委員）

先生方に対しては全体会議、授業見学後に学園の理念・方針を改めて伝えている。生徒には直接的に伝えるよりも、理念・方針が伝わり感じられるような運営を意識している。

（山田委員）

2年生のスケジュールに不安があるため、その中で改めてスタートアッププログラムのような機会があると不安も解消される。またクラス替えも行われているため、新学年でのスタート時は非常に大事だと思う。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	3
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

① 課題

・情報システムツールを積極的に活用していたが、担任と教科担当による直接的なコミュニケーションの不足が見られた。

② 今後の改善方策

- ・情報システムツールを活用し、タイムリーな情報交換を行う。
- ・学年・学科会議を実施し意見交換の場を設けることで授業の様子等を伺い、クラス運営に活用していく。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

（黒米委員）

教員数が増えたことでコミュニケーションの頻度が減っているのではないかと。チーム担任制のためコミュニケーションの対象も曖昧になっているのではないかと。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

・内部による研修は定期的に行えているが、外部講師を招き入れての研修機会が少ない。

② 今後の改善方策

・全教職員が集まる年数回の会議にて、外部講師を招いた研修機会を設ける。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

(黒米委員)

専門学校教員への研修は、法人代表の話よりも都道府県協会の代表などに最先端保育の情報・状態を研修していただいた方がよいのではないかと。

(島田委員)

高校でも外部企業様をお招きしており、意識的に外部企業と繋がる取り組む必要性を感じている。

(山田委員)

保育現場ではキャリアアップの一環として、園全体の取り組みではなく個人の活動として研修に参加している。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	3
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

・退学的意思決定前に低減に繋がる施策を講じる必要がある。

② 今後の改善方策

・近年通信制高校からの入学者が増加しているため通信制高校に対する理解を深める(内部の通信制高校と連携)。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

(島田委員)

通信制高校では不登校や何かしらの事情があって入学している生徒が多い。やる気があっても体力がついていかないという生徒も多く、専門学校への進学前に少しでも当たり前のことができるようになるための支援の必要性を感じている。

(山田委員)

同級生が退学する姿も見てきたが気持ちは十分にわかる。理想と現実のギャップを感じやすい業界だと思う。

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

- ・卒業生、中途退学者への支援体制の強化。
- ・就職後、早期退職をしてしまう卒業生が毎年数名出ている。

② 今後の改善方策

- ・卒業生講話などの依頼を通して、学校に来る機会を設定する。
- ・卒業後に同窓会を実施し、就職後の悩みを吸い上げる機会を設けることで、早期退職を防ぐ。
- ・中途退学者へは退学面談時に取得単位の説明、今後の進路における選択肢を提案する。
- ・卒業前の学年に対して勤労観を育む時間を設け、就職先への定着率を向上させる。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

（黒米委員）

就職後に授業を改めて受けたいという希望も多いため、卒業生支援を行う機会を学校で設けられるのが望ましい。

（山田委員）

就職後は自身の仕事を中心に時間に余裕をもてないが、就職後も支援を受けられる環境があれば参加したい。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

① 課題

・教室数に限りがあり、自習教室が固定できていない。また、クラスから距離をとりたい学生に対して用意できる環境がない。

② 今後の改善方策

・新校舎設立(2023年秋予定)により教室数に余裕を設ける。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

(山田委員)

移動教室が多いと遅刻する生徒もいるため固定教室の方が望ましい。

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	3

① 課題

・オープンキャンパス内で行う授業体験を、実際の授業で行っているものに近い形式で行うことで入学後のギャップを生まないようにする。

② 今後の改善方策

・教科担当に授業体験を依頼し、実際の授業に近い状況を作る。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

（黒米委員）

最近の保育業界は、SNS やメディアの影響で虐待等のマイナスイメージが強い。

（島田委員）

大学への入学のし易さ、保護者の持っている少子化というイメージも影響し保育業界への進学者が減っているのではないかと。保育はコミュニケーション職でもあるため、コロナの影響によりコミュニケーションに自信がもてない生徒も増えていることが影響しているかもしれない。

（山田委員）

実際に保育現場で働き、日々保育の魅力を実感しているからこそ、他分野と迷っている入学検討者に、卒業生からも魅力を伝えていきたい。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第2次中期計画(2018年度～2022年度)の達成状況等の公開と同時に、第3次中期計画(2023年度～2027年度)を公開する予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

・個人情報書類について、退社時は鍵付きキャビネットでの保管を徹底できているが、勤務時間中に個人の机上で長時間管理されていることがある。

② 今後の改善方策

・退勤時だけでなく、使用后、離席時には随時保管場所へ戻すよう徹底する。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

・ボランティア活動への案内が掲示、ポータルサイトでの発信のみとなっており、学内でどの程度の生徒がボランティアに参加しているかも把握できていない。

② 今後の改善方策

・ボランティアの案内が来るのを待つのではなく、教員自ら情報を収集しホームルーム等で積極的な案内を行う。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

（山田委員）

1年生からボランティア等で保育現場に関わることができた方が、早期に将来のイメージをもてるのではないかと。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

（黒米委員）

次の10年へ向けて、学校の強みをもっと学外へも発信していただきたい。

講師も積極的に協力する体制があるので、学校からもっと働きかけた方がよいのではないかと。

（島田委員）

保育ニーズは少なからずあるので、入学後のギャップを埋めてあげられるように高専接続も連携していきたい。

（山田委員）

実習が保育職のモチベーションを上げる機会となるため、実習後の振り返りをより充実してもらいたい。生徒の振り返りや情報を蓄積すれば、後輩にも伝えられるのではないかと。

保育現場は短いスパンで日々変化していることに留意しながら、指導内容が適切なものになっているか、情報収集を日々し続けていく必要がある。保育職の魅力を感じられるような機会の提供を入学希望者・在校生・卒業生に向けて広く行っていくことで、社会から必要とされ続ける学校運営を目指していく。

以上